

令和6年度第1回釜石市文化財保護審議会の開催結果について

1 開催日時 令和6年6月28日（金）10時00分～12時00分

2 開催場所 釜石地区生活応援センター 青葉ビル研修室2

3 委員出席状況

委員15名中11名が出席した。

1) 出席委員 川原清文会長、久保知久副会長、鱒沢トモ子委員、市川淳子委員、藤井サエ子委員、藤井静子委員、藤原信孝委員、松本武委員、佐々木光壽委員、加藤良司委員、千葉まき子委員

2) 欠席委員 河東直江委員、千葉愛子委員、瀬戸元委員、山崎倫昭委員

4 事務局出席者

高橋勝教育長、佐々木豊部長、正木浩二文化振興課長、森一欽世界遺産室長、手塚新太課長補佐兼文化財係長、加藤幹樹主査

6 傍聴者 なし

7 経過

川原会長によって議事進行が行われた。

1) 報告1「令和5年度文化財保護と活用事業の実施状況について」

<協議内容・経過>

事務局から「令和5年度文化財保護と活用事業の実施状況について」資料に基づき報告した。

・千葉委員 橋野高炉跡の二番高炉跡付近の石垣付近に布団カゴが置いてあるが、見学者から違和感があるとの声が上がっている。どのくらいの期間設置される予定か知りたい。早く撤去していただきたい。

・事務局 色々なご意見があるが石垣の石をあまり動かさないようにするため、布団カゴとした。国庫補助を導入していることもあり5・6年そのままとなる。撤去については石垣の保存方法も含めて検討する。

・松本委員 文化振興課と世界遺産課が一つの課となったが、橋野高炉跡について文化財保護審議会で検討することになったと考えてよいのか知りたい。また、御日払所跡の石垣が立派になっているが、自然石から人工的なものに替えて修復されたようで違和感がある。

・事務局 文化財保護審議会は文化財の保存・活用を検討するものであり、これまでも橋野高炉跡についてご意見を頂くことがあった。踏み込んだ内容の議論は橋野高炉の整備検討委員会等で行っており、文化財保護審議会か

らも委員が選出されている。同様に屋形遺跡整備検討委員会も発足するが詳細はそちらで検討してもらうこととなる。

- ・事務局 御日払所跡の石組は元々利用されていた石が崩れたため、修復したもので石を替えているわけではない。その際には文化財保護審議会に報告している。二番高炉跡で利用された切石が石垣に転用されている。
- ・佐々木委員 三番高炉跡の石組に隙間が確認される。地震で崩れるのではないかと心配している。現代の積み方ではなく当時の積み方で何とかフォローできないか考えていただきたい。
- ・事務局 原則として昔の技法等を検証しつつ修復作業等を行っている
- ・加藤委員 屋形遺跡のボーリング調査を実施したとのことであるがその成果を教えてください。
- ・事務局 遺跡本体から外れる西側北西部の調査を行った。ボーリング調査の結果、調査箇所的大部分が中世城館ちゅうせいじょうかんによって削平さくへいされていると判断した。
- ・藤原委員 屋形遺跡が国史跡に指定されてから数年経っているが、現地の見学が難しい状況にある。今後の計画を伺いたい。
- ・事務局 今年度中に現地に案内看板を設置する予定となっている。見学については復興道路を利用した周遊が可能である。新しく見学路を設けるためには調査が必要であり、整備検討委員会での検討も必要となる。また、郷土資料館では貝塚パネルを展示しているが、そのほかの遺物も展示公開できるよう調整したい。

<結果> 質疑応答のうえ、了承を得た。

2) 協議1 「令和6年度文化財保護と活用事業の計画について」

<協議内容・経過>

事務局から、「令和6年度文化財保護と活用事業の実施計画について」資料に基づいて説明した。

- ・久保委員 野田家文書のデータ化を進めている中で、一番古い古文書の年代を知りたい。
- ・事務局 近世以降のものが多い。記載した時点ではないが、記された年代では大永3年(1523)が古い記述となる。
- ・佐々木委員 大畑の佐々木家で古文書を見せていただいた。かなりの量がある。まだまだ市内に残っていると思うので調査が必要だと思う。
- ・久保副会長 最近、代替わりが多く廃棄される可能性が高い。今のうちに調査が必要だ。
- ・川原会長 東日本大震災の津波で、古文書などの資料が流失した話も聞いている。全部を一度に調査することはできないが、タイミングを見て調査が必要と考える。
- ・事務局 古文書の所在は、未指定の文化財リストに掲載しているが、漏れがあり、釜石市誌に掲載された古文書も同様であるが所在が確認できてい

ない古文書が多い。遺失や散逸の危険性が高いことから、早い段階で、計画的な所在確認調査が必要と考えている。

- ・加藤委員 鉄づくり体験は、多くの中学生が体験しているようであるが、一般向けや市外の人を対象にして開催するのも良いと考える。鉄づくり体験は釜石独自の事業で他の地域ではやっていないと思う。
- ・事務局 以前は一般向けに実施してきたが、現状の体制では無理が生じる。かまishi DMC が一般向けの鉄づくり体験に興味を持っており、技術指導を行っている。宮古市や旧大東町等で砂鉄を使った鉄づくり体験を行っている。こちらは古代のたたらを意識しており、釜石市は幕末からの鉄づくりを意識して鉄鉱石による鉄づくり体験であることから独自の特徴と言える。住田町では鉄鉱石を使って実施しているが中川先生の技術指導を受けて始めたものである。
- ・事務局 鉄瓶製作を行っている方から餅鉄による鉄瓶を作成したいとの話をいただいた。事業化するため市内外の一般向けに餅鉄拾いや鉄づくり体験を行う。当事業でできた鉄を鉄瓶づくりの原料として提供したいと考えている。
- ・加藤委員 鉄づくり体験事業は良い事業なのでもっと拡大していくと良いと思う。オール釜石で頑張ってもらいたい。
- ・事務局 鉄づくり体験は現在の方法で2日間必要である。鉄づくりの大変さを身をもって知ることができる。時間のない一般向けに小規模で1日で実施する方法を模索している。行政だけで実施するのは難しいのでかまishi DMC 等と協力し合いながら進めていきたい。

<結果> 質疑応答のうえ、了承を得た。

3) 協議2 「令和6年度釜石市文化財指定推進物件の取扱いについて」

<協議内容・経過>

事務局から今後の釜石市文化財指定推進物件の取扱いについて資料に基づき説明し、今後の文化財指定に向けて意見を求めた（清水峠の庚申塔^{こうしんとう}、松倉太神楽、松倉虎舞、箱崎半島の千畳敷）。

- ・事務局 清水峠については、本来新道峠^{しんみち}であったとお話がある。
- ・川原会長 前回は話題となった。古地図や周辺の方からのご意見を頂きながら、括弧書きで附記することも検討してもらいたい。
- ・川原会長 松倉太神楽と松倉虎舞を推進物件としている。優先順位を決める必要があると思うが如何か。
- ・事務局 無形の民俗文化財については歴史的背景も重要であるが、伝統的に継承されていることを軸としたい。松倉太神楽は岩手県指定の南部藩壽松院年行司支配太神楽と同時期にはじまったといわれている。松倉虎舞は片岸虎舞と同時期に伝わったともいわれている。同時指定もあり

うるが保存団体が同じであり団体の意向も確認しつつ進めたい。

- ・川原会長 箱崎半島の千畳敷の指定についてご意見を頂きたい。
 - ・藤原委員 千畳敷は釜石の景勝地で一番良いと思う。既に三陸ジオパークや観光地として知名度が高い。釜石を代表する名勝地として指定するのが良いと思う。
 - ・松本委員 上空からの写真や海側から見た写真なども欲しい。
 - ・川原会長 ご意見をもとに指定候補物件に掲載された文化財について、指定に向けた調査等を進めることとする。
- <結果> 指定に向けた調査等を進めることとした。

4) 協議3「その他」

<協議内容・経過>

事務局から「第20回有形文化財展の開催について」、「釜石市文化財保存活用地域計画作成作業の進捗状況について」、「新規発見の橋野町のシナノキについて」説明し意見を求めた。

「第20回有形文化財展の開催について」

- ・川原会長 意見等がないため、次回の審議会にて協議していただきたい。

「釜石市文化財保存活用地域計画作成作業の進捗状況について」

- ・意見等特になし。

「新規発見の橋野町のシナノキについて」

- ・川原会長 新規発見の橋野町のシナノキについては、現地を確認してきたが、非常に立派な巨木であった。指定を視野に入れることが良いと感じた。
- ・久保副会長 最近は風力発電といった和山の開発が進んでいる。伐採されるのではないかと心配している。
- ・事務局 シナノキ周辺の開発については情報が入っていない。情報収集に努めたい。

<結果>

「第20回有形文化財展の開催について」

- ・次回の審議会にて協議することとした

「釜石市文化財保存活用地域計画作成作業の進捗状況について」

- ・意見等特になし

「新規発見の橋野町のシナノキについて」

- ・指定を視野に検討することとなった。また、周辺の開発等について情報収集を行うこととした。

以上